

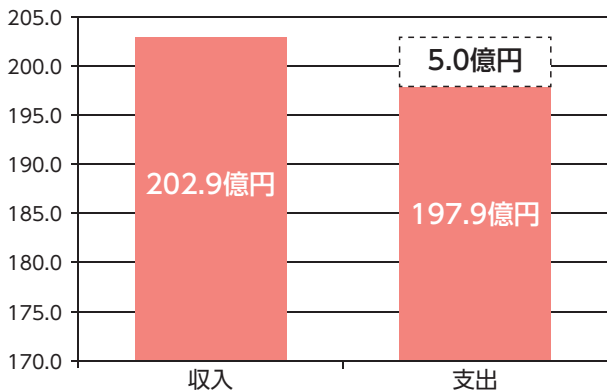
# 平成24年度決算 登別市の台所事情

平成24年度の市の予算は、3月31日で会計年度を終了し、未払金や未収金を整理する期間を終えて、5月31日をもって、すべての支払いや収入を終えました。

今号では、皆さんの納めた税金がどのように使われたかなど、平成24年度決算についてお知らせします。

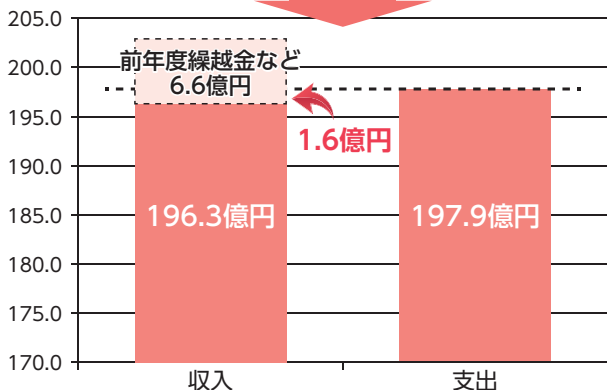
問い合わせ 財政グループ (☎<sup>05</sup>1331)

平成24年度の決算状況



※黒字額5.0億円には、翌年度繰越事業の財源0.2億円を含む。

平成24年度単年度で考えると…



## 平成24年度の台所事情

### 一般会計

一般会計とは、税金などを財源に、福祉や教育など市の基本的な事業を行うための会計です。



5・0億円の黒字を確保するも、  
単年度では1・6億円の赤字

平成24年度の収入は202・9億円、支出は197・9億円で、収入と支出の差し引きでは、5・0億円の黒字となりました。

しかし、平成24年度の収入202・9億円のうち、6・6億円は前年度からの繰越金であるため、純粋な平成24年度の収入は196・3億円となりま

す。このため、平成24年度の単年度で考えると、1・6億円の赤字が生じていることとなります。

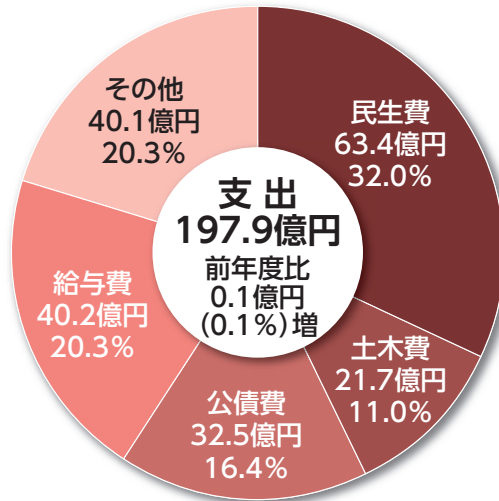
これは、平成24年度の純粋な収入のみでは支出を賄いきれなかったことを示しており、決して楽とは言えない台所事情にあったと言えます。

### ポイント

【民生費】後期高齢者医療費の減などにより、昨年度に比べ1.6億円(2.5%)の減

【土木費】市営住宅の建て替えや改修費の増などにより、昨年度に比べ2.9億円(15.6%)の増

- 民生費 お年寄りや子どもなどの福祉のために使われたお金です
- 土木費 道路や公共施設などの整備や維持に使われたお金です
- 公債費 道路や公共施設などを整備するために借り入れた借金を返済するためのお金です
- 給与費 職員に給料やボーナス、退職手当などを支払うためのお金です



### 支出の状況



支出額は、昨年度に比べ  
0・1億円増の197・9億円

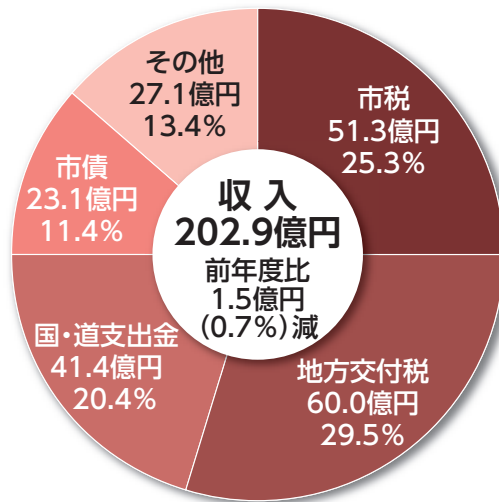
### ポイント

【市税】固定資産税の減などにより、昨年度と比べ1.4億円(2.7%)の減

【国・道支出金】北海道からの道道改良事業の委託金収入や子ども手当交付金の減などにより、昨年度に比べ2.7億円(6.2%)の減

【市債】消防デジタル無線の整備のために借り入れた市債や退職手当債の増などにより、昨年度に比べ6.1億円(36.2%)の増

- 市税 市民の皆さんから納めていただいた税金です
- 地方交付税 市町村の規模や税収に応じて国から交付されたお金です
- 国・道支出金 特定の事業に使うため国や北海道から交付されたお金です
- 市債 道路や公共施設などを整備するため国や銀行から借り入れた借金です



### 収入の状況



収入額は、昨年度に比べ  
1・5億円減の202・9億円

### 特別会計

特別会計とは、一般会計とは別に、保険料や使用料を財源に、国民健康保険や介護保険、公共下水道事業など、特定の事業を行うための会計です。



### 全ての会計で黒字を確保

(億円)

会計	国民健康保険特別会計	学校給食事業特別会計	公共下水道事業特別会計	簡易水道事業特別会計	介護保険特別会計	カルルス温泉スキー場事業特別会計	後期高齢者医療特別会計
歳入	67.0	3.5	27.1	0.4	30.8	1.0	6.6
歳出	65.5	3.5	27.1	0.4	30.3	1.0	6.6
収支	1.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0

市の借金はどうなっているの？



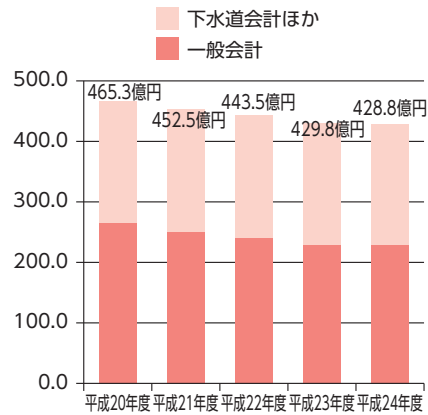
## 市の借金の残高は着実に減少

市は、道路や公共施設など、将来にわたって利用される大規模な施設を整備する時には、国や銀行から長期間で返済する資金を借り入れており、これらは市の借金に当たります。

市の借金残高は、昨年度末に比べて、1・0億円減少し、平成17年度以降、8年連続で減少しており、借金の返済は着実に進んでいます。

その反面、平成24年度の借金の返済額（公債費）は46・9億円（一般会計32・5億円／下水道会計ほか14・4億円）に上り、市の台所を圧迫す

る大きな要因となっています。



借金残高の推移

これからの市の台所事情

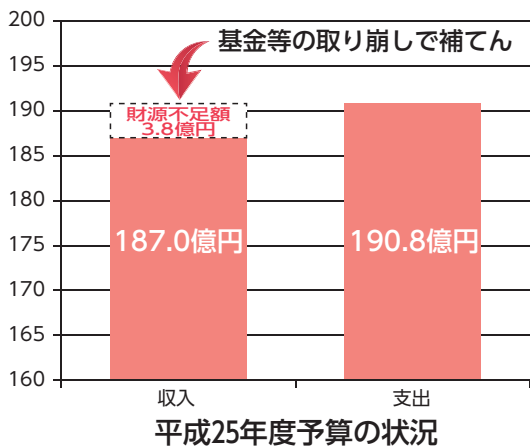


## 平成25年度予算では3・8億円の財源不足

平成25年度の予算（一般会計）では、190・8億円の支出に対して、187・0億円の収入しか見込めず、3・8億円の収支不足が生じました。

この収支不足については、全額を貯金の取り崩しで埋める予定をしており、今後、財政が好転せず、収支不足が解消されない場合には、平成25年度末の貯金の残高は7・3億円まで減少してしまいます。

そのため、平成25年度の財政運営に当たっては、少しでも収支不足額を少なくし、貯金を下ろさなくて済



平成25年度予算の状況

むよう、適切に収入を確保することはもちろん、無駄な支出がないかチェックを重ねるなどの努力をします。

今後、高齢者人口の増加で社会保障費の増加が見込まれることや老朽化した公共施設の整備などに多くのお金を要することなどから、市の台所事情は引き続き厳しい状況が続きます。

また、市民の皆さんから納めていただく税金（市税）は、景気低迷や人口減少の影響から、今後大きく増やすことは難しい状況で、国から交付される地方交付税についても、国の財政状況から大きく減らされることなどが心配されるなど、市を取り巻く環境は一層厳しさを増すことが予想されます。

そうした中であって、市民の皆さんが必要とするサービスを安定的に提供していくためには、職員数の見直しや民間活力の活用など、サービスの効率性を不断に検証し改善していくことはもちろん、時代の変化により必要となったサービスの見直しなどにも積極的に取り組まなければならぬと考えています。

市には貯金がどれくらいあるの？

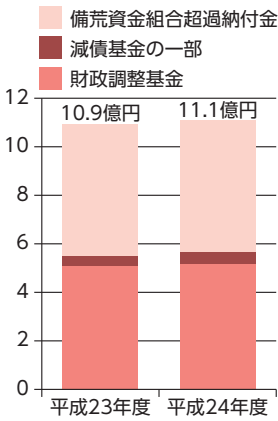


## 自由に使うことができる貯金は 昨年度末に比べ0・2億円増加

市は、もしもの時の備えや特別な用途に使うことを目的に、17の基金等に積み立てをしています。

このうち、台所事情が苦しいときなどに自由に使うことができる基金等は、財政調整基金、減債基金の一部、北海道市町村備荒資金組合超過納付金の3種類で、市がもしもの時に使うことができる貯金に当たります。

平成24年度末のこれら貯金の残高は、当初取り崩しを予定していた5・



基金の残高状況

5億円について、決算において取り崩しを取りやめることができたことから、合計で11・1億円となり、昨年度末の残高に比べて0・2億円増加しました。

# 平成24年度健全化判断比率と 資金不足比率を公表します

『地方公共団体の財政の健全化に関する法律』に基づき、登別市の平成24年度決算における『健全化判断比率』と『資金不足比率』を公表します。

平成24年度決算では、健全化

判断比率は全ての比率において早期健全化基準を下回り、資金不足比率も全ての公営企業において資金不足額は生じず、経営健全化基準を下回りました。

## ○早期健全化基準

4つの健全化判断比率が、1つでも早期健全化基準を上回った団体は、財政健全化計画を策定し、自主的に財政の健全化に取り組むこととなります。

## ○財政再生基準

将来負担比率を除く3つの健全化判断比率が、1つでも財政再生基準を上回った団体は、財政再生計画を策定し、国の監督の下で、財政再生に取り組むこととなります。

## ○経営健全化基準

資金不足比率が、経営健全化基準を上回った公営企業は、経営健全化計画を策定し、経営改善に取り組むこととなります。

## 健全化判断比率

### ①実質赤字比率

実質赤字比率とは、市税や地方交付税などの収入額に占める一般会計等（登別市は、一般会計に学校給食事業特別会計を加えたもの）の赤字額の割合で、一般会計等の赤字額の規模を示すものです。

平成24年度においては、一般

### ②連結実質赤字比率

連結実質赤字比率とは、市税や地方交付税などの収入額に占める、全ての会計の赤字額の割合で、市の赤字額の規模を示すものです。

### ③実質公債費比率

実質公債費比率とは、市税や地方交付税などの収入額に占める、一般会計等の公債費や公営企業の市債償還のために一般会計が負担した額などの合計額の

会計、学校給食事業特別会計とも赤字が生じていないため、比率はなしとなりました。

### ④将来負担比率

将来負担比率とは、市税や地方交付税などの収入額に占める、市債残高や退職手当引当金、土地開発公社の債務額など、市が将来的に負担しなければならぬ額の割合で、市の将来負担額の規模を示すものです。

平成24年度においては市債残高が減少したことや退職手当引当金が減少したことなどから、比率は前年度から1.3割改善

割合で、市の実質的な公債費の規模を示すものです。

平成24年度においては、公共下水道事業特別会計の市債償還のために一般会計が負担した額が増額となったことなどから、比率は前年度から0.5割上昇し、15.4割となりました。

## 資金不足比率

資金不足比率とは、それぞれの公営企業の事業規模に占める、資金不足額の割合です。

平成24年度においては、

資金不足を生じた公営企業がなかつたため、

全ての公営企業で

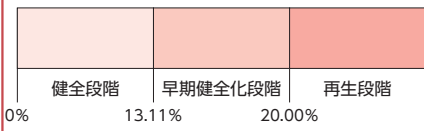
比率はなしとなり

ました。

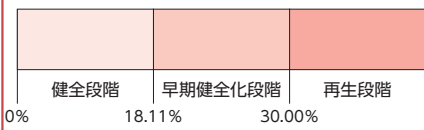
し、86.9割となりました。

## 健全化判断比率

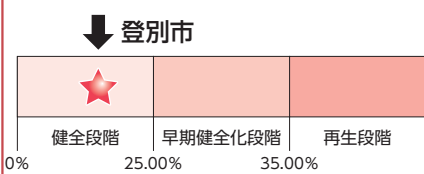
### ①実質赤字比率 『比率なし』



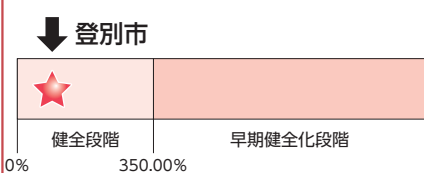
### ②連結実質赤字比率 『比率なし』



### ③実質公債費比率 『15.4%』



### ④将来負担比率 『86.9%』



### いずれの公営企業とも比率なし

水道事業会計		
公共下水道事業特別会計		
簡易水道事業特別会計		
カルルス温泉スキー場事業特別会計		
	健全段階	経営健全段階
	0%	20.00%

## 問い合わせ

財政グループ  
(☎85) 1 3 3 1)